

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り、掲げている。	○	独自の理念は、現在の状況に応じた様子をもとに、職員間で意見を出し合い、掲げている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	①月1度のミーティングを行うようにしている。 ②日誌を活用した申し送り、物事を自由に言えるような雰囲気作りに取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①家族へ契約時・入居時に説明している。 ②運営推進協議会にて説明している。	○	広報誌・お知らせ便りの発行により、理解していただく。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	①散歩で外出したときなど、気軽に声を掛けお話ができるようにしている。 ②ホームの中庭がイベント会場になる場合は、交流の場となっている。	○	広報誌・お知らせ便りの発行により、身近に感じて頂くように取り組む。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	①こちらから参加して交流を深めるところまでには到っていない。 ②季節行事として地元の人々に訪問して頂いての交流となっている。	○	ホーム地元地区の地域活動を調べてみて、参加できるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の生活が主体となっているのが現状で、地域への貢献とまでは到っていない。	○	地域活動の現状に応じて、役立つことがあれば、それに対して目向きにと組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価にて指摘された事項について、評価をもとに対処・改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①平成18年度から、年6回(2ヶ月に1度)開催している。 ②話し合いにおいての意見をもとに、サービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進協議会のみとなっている。	○	担当者を決めて、常に連携を保つようにし、サービスの向上に努めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」をすべて職員が正しく理解しているとはいえない。	○	「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」について認識不足であると思われるので、再確認して皆で学ぶ。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①虐待が無いように注意を払い、防止に努めている。 ②虐待の事実はない。	○	「高齢者虐待防止関連法」について認識不足であると思われるので、再確認して皆で学ぶ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を確認しながら、丁寧な説明・対応により行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①意見・不満・苦情などを話しやすくできるような信頼関係を築くような対応を心がけている。 ②意見などを聞いた際は、速やかに対応して運営に反映している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①特変があった場合は、速やかに報告を行っている。 ②月1度「近況報告書」を作成しご家族等へ報告している。 ③金銭の管理についても、担当者を設け、複数の職員でもってチェック・管理している。④職員の異動の際は面会時などを利用し、挨拶を・報告をしている。	○ 今後も継続して行う。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の向上のため、前向きにとらえ、意見などは反映し、速やかに取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①常時聞く耳を持ち、または雰囲気作りに取り組んでいる。 ②ミーティング、勉強会時に実施。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	①決められた勤務の中での対応となっている。	○ 調整がしきれないことがあるが、場合に応じては調整をして、配慮して行っていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	組織であるため、異動や、退職などはあるもののダメージは防ぐ配慮はしている。(申し送りや引継ぎにおいて)	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>①各種研修会への参加。 ②資格取得のすすめ。 ③勉強会によるサービスの向上。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会への参加</p>	<p>○ 意見交換が相互のサービスの向上につながると思うので、継続的に参加をする。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特にこれといった取り組みは行っていない。</p>	<p>○ 気軽に話し合える雰囲気作りにし、機会をもちたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の努力や実績、勤務状況がきちんと把握されているのかは解らない。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に調査・面会を行い、話す機会を設けている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時・契約時等に、時間を気にする事無く、納得していただけるまで話を聞くようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人家族中心のサービス開始が多いように感じる。	○	認知症通所介護サービスを事前に利用して、場の雰囲気に馴染めるように相談しながら工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に時間を共有していることから喜怒哀楽を分かち合う。また「人生の大先輩」として、尊敬しつつ学ばされている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の状況を共有し、信頼できる関係作りに努めている。ただ、家族によっては、気持ちに温度差が見られる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員が本人と家族との間を保ち、それぞれの思いが常に伝わるよう配慮し、良い関係となるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①ご家族の皆様は、機会・都合をみては、外出・外泊をして頂けるよう相談をしている。 ②希望があった場合は、配慮しつつ、個別に対応・支援している。	○	本人の希望が少ない。または話せないでいるのかとも考えられるため、話す機会、雰囲気作りに取り組みたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	①個々に出来ること、出来ないことを話し、助け合いができていく。②職員が間に入り、良い関係が保たれるように手助けをしている。	○	なるべく職員は表に出ず、影で支えられるような存在となり、見守っていけるように取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも、気軽にお越しくたださっていただけるよう、また相談に応じるようお話をしているが、退去されたらそれで終わりということが多い。	○	築き上げた関係を大事にして、退去後も相談に応じていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の何気ない会話から、考えなどを聞き取り、個々がその人らしい思いや暮らしができるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	積極的に情報収集につとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態把握を怠らず、日々職員相互で情報を共有し申し送ることに努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれが出し合った意見を参考にして作成している。	○	認識できる方については、もっとその人の意見を組み入れた計画となるように行っていきたい。また、ご家族の意向も十分に反映できるように計画していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	①随時、変化を見逃さないように心がけている。 ②モニタリングは行うものの、取り組みが不足している。	○	現状に応じた計画となるよう、必要が生じた際は即座に対応をしていくように取り組む。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、情報は共有されているものの、介護計画には十分に反映されているとは言えない。	○	もっと反映されるようにはできると思われるので、十分に生かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接しているデイサービスセンターとの交流が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	①移動図書館の利用。 ②避難訓練時の消防署員との訓練 ③ボランティア、慰問の受け入れ。	○	その他、協力体制をつくり、活用する機会を設けていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用はなされていない。	○	状況に応じて、ご家族・本人と相談しながら検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働機会は今のところなし。	○	機会をみて、地域包括支援センターとの協働の場を設ける。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診がなされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との関係を築いていない。	○	認知症に詳しい医師と関係を築いていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は配置されている。または、隣接されているデイサービスセンターの看護師にも相談できる。常に連絡が取れる状態になっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	そうした場合、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、まだ全員で方針が共有されていない。	○	看取り指針の早期整備
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のあり方について、まだ全員で方針が共有されていない。	○	看取り指針の早期整備
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、関係者間で話し合い、情報の交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①家庭的雰囲気…親しみある会話・言葉遣いは大切であり、プライバシーを損なわないよう、人格を尊重し対応している。 ②個人情報には注意して取り扱っている。	○ 接遇に関する講習会・勉強会の実施。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	それぞれ自分なりの生き方、生活してきた訳ですから、個々に応じた対応説明を行い、表出できるよう働きかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズム、今何をされたいかを大切にしている。そして、個々のペースを大切にするように支援している。	○ ①職員の都合を優先させることもある。技術・能力不足、職員間の連携不足など考えられるため、職員の能力向上に努める。 ②入居者にあわせる姿勢で取り組むように努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	①その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。②ご家族の協力を得て、理容・美容院への利用をされている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に役割を持ちながら、一緒になって準備・食事・後片付けを行っている。人によっては、声掛けにより行っている。	○ 今後も継続して行う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの嗜好準備し、状況にあわせ支援している。	○ 今後も継続して行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①排泄表に基づき、排泄サイクルを決め、プライバシー・羞恥心に配慮しながら、支援に取り組んでいる。 ②失禁の際はさりげなく誘導し、自信を損なわないよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	①入浴の時間帯は、勤務の関係でほぼ時間帯は決まっている。 ②前日の未入浴者を優先に支援をしているが、なるべく希望やタイミングを合わせ支援している。	○	今後も継続して行う。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休んで頂くよう、個々に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①個々の趣味・得意な事を、生活の中で楽しむようにしている。 ②日々の役割分担を設け、自分がしなければならないと思う気持ちを、持っていてほしい。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを理解しつつも、なされていない。	○	個々の力量、希望に応じて支援できるように検討したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数やその日の都合(受診・状態の変化など)により、行えない時がある。時間をずらしたり、後日に行えるような配慮・対応をしている。	○	今後も継続して行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①ご家族の皆様には、機会・都合をみては、外出・外泊をして頂けるよう相談をしている。 ②職員が出かける際は、その都合に支障がきたさない場合、一緒に出かける。 ③バス・バイクの計画により、外出する機会を設けている。	○	今後も継続して行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①本人自らが連絡を取られることはない。 ②希望があった場合は、プライバシーに配慮しつつ、個別に対応・支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①いつでも訪問・面会ができるようにし、交流がある。 ②お会いしている時間を大事にし、また、お茶などを出してゆっくりしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束を行うような必要はなく、行っていない。 ②「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をすべて職員が正しく理解しているとはいえない。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の再確認し理解する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をしないよう、状態を把握してケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、所在や様子の把握に努めている。	○	転倒の危険性、徘徊により目に付かなくなるなど、職員間、相互の連絡を密にしている。また、個々の観察力・洞察力を磨きみに付け、常に意識するように努める。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①個々の状態に応じた対応をしている。 ②針や刃物などについては必要に応じて見守りをしながら提供している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全に暮らすことができるよう、職員間で意見交換して取り組んでいる。	○	職員間において、意識の持ち方に差があるように感じる。意識の統一を図ることに努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師頼みとなっている。不在時の初期対応は個々の持っている知識頼みとなっている。	○	救命救急の対応訓練並びに応急手当や初期対応の訓練を実施していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、火災時の避難訓練(昼間想定)を実施している。	○	①夜間を想定とした火災時の避難訓練を実施する。予定(11月) ②夜間帯の災害については、大きな不安を感じている。訓練もさることながら、具体的なマニュアル等の整備を検討。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々に予測されるリスクや状態の変化など、その状況を報告・説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見は早期発見・早期報告・早期対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①受診時に頂く、処方薬の説明書はいつでも見れるような場所におき理解して頂くようにしている。 ②飲み忘れ・誤服薬を防ぐために、服薬確認表の活用。 ③ダブル・トリプルチェックを行い、薬に対する意識を持つように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①排泄表を活用。 ②個々のレベル・ペースに合わせた運動や活動を勧め、少しでも身体を動かすことにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の習慣や持っている力を生かしながら、口腔ケアの重要性を理解しつつ、良好に保つよう支援している。入れ歯の手入れも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた支援を行っている。また、栄養士による献立のチェックによりバランスの確保がなされている。	○	今後も継続して行う。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)			
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①手洗い・消毒の励行。 ②消費・賞味期限などの食品管理を行っている。 ③新鮮で安全な食材の活用のため、買い置きはしない。また、自家栽培物の使用。 ④毎食後の消毒・器機類の消毒を行い衛生管理に努めている。	○	今後も継続して行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①玄関は別棟にある。 ②市道沿いに案内表示板の設置。 ③花壇・畑・周辺の木々・プランター…雰囲気や和らぐようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①四季の花を空間を飾っている。 ②スペースを使用して、四季を通じたギャラリーにして、季節感を味わうよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	構造を最大限に有効利用できるよう相談し、限られたスペースにおいてソファ・椅子・テーブルを置き、落ち着けるコーナー作りを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、日用品、思い出の物など、持ち込みを可能にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	①温度計の活用 ②その日の状況に応じて、換気・空調の配慮を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADL状態に合わせた手すりの設置。段差のない空間。	○	せっかくの手すりがあっても、機器を置くことによってそのスペースを潰してしまうため、生活空間の活用検討。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識障害の方へのフォロー、比較的そうでない方への声掛けにより対応。ただ、レベルが高い方は少しでも混乱される事があり、その後のフォローを大事にする。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りは、広大な敷地により、散歩などの気分転換にとっておきの空間。バルコニーはあるもの、今のところこれといった有効活用はされていない。	○	バルコニーに、植物・植木などを置き、直ぐそばでも外気に触れる事ができ、自由に出入りできるような環境にされたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 個々のレベル・状態を把握して、それぞれの持っている現有能力を低下することのないように、レクリエーション活動を通じて行っている。
- プライバシーには十分配慮して、その人らしい生活ができるように支援している。
- まとまりのある方々で、一斉に物事に取組み活動されている。何処へ行くにも一緒…相手を気にし、いたわる気持ちをもっておられる。
- テーブルを囲み、和気藹々とされており、お茶のみ・談話に毎日、花を咲かせている。芸達者な方々で、いつも盛り上がっている。